



CSDの鈴木さんの指導を受け勝間田川の水質を調査する児童

ふるさとの川の水質をみんなで調査

■「身近な水環境の全国一斉調査」に参加

勝間田小学校の4年生20人が6月29日、勝間田川の水環境調査を実施しました。これは総合的な学習「ふるさと勝間田」の一環で行われたもので、児童はコミュニティスクールディレクター（CSD）の鈴木一弘さんの指導のもと勝間田川の上・中・下流の水を採取し、それぞれの水質を専用キットを使って調べました。参加した児童は「勝間田川はきれいな水だったので、汚したくない」と話しました。調査結果は、全国的な水環境調査をしている団体に提出します。

おいしいお米が育ちますように

■田植え体験

萩間小学校は6月16日、学校裏の田んぼで田植え体験を行い、5年生20人が挑戦しました。この田植えは、子どもたちに自然の恵みの大切さを学んでもらおうと、毎年行われています。児童たちは、コミュニティスクールディレクター（CSD）の坪池芳子さんと学校支援員の指導を受け、縦横がまっすぐになるよう確認しながら、1本1本丁寧に苗を植えていきました。今後、田んぼの管理を行いながら、9月ごろに児童たちが稲刈り体験を行う予定です。



指導を受けながら丁寧に苗を植え付けていく児童

宝くじ助成で公民館備品を整備

■自治総合センター コミュニティ助成事業

東萩間区では5月、宝くじの社会貢献広報事業として一般財団法人自治総合センターが行う「コミュニティ助成事業」を活用し、公民館の会議用備品などを整備しました。整備した備品は、折り畳みテーブル、折り畳み椅子、放送設備、プロジェクターなどです。この事業により、地域住民が快適に公民館を利用できるようになり、コミュニティ活動の効率化や新たな活動の試みなどにつながる事が期待されます。



整備した折り畳みテーブルや椅子、放送設備など



疑問を積極的に聞きながら勉強に取り組む子どもたち

疑問も苦手もスッキリ解決

■土曜自習室

市教育委員会は6月20日、新型コロナウイルス感染拡大による休校期間に、自宅での勉強で疑問を解決できなかった小中学生を支援し、学習の軌道に乗せることを目的として、い〜らで「土曜自習室」を開催しました。参加者は各自で準備した課題に取り組み、指導員やサポーターの市内大学生に積極的に質問し疑問を解消しました。参加した中学生は「わかりやすく教えてくれたので参加してよかった」と話しました。この教室は、今後も開催されます。



「ヨゲンノトリ？」クッキーを手にコロナ終息を願う作業所メンバー

疫病終息を願うクッキー

■疫病退散・安寧祈願クッキー「ヨゲンノトリ？」

NPO法人ころが運営する市内の就労継続支援B型事業所「さがら作業所」が、新型コロナウイルスの終息を願い、新商品のクッキー「ヨゲンノトリ？」を販売しています。「ヨゲンノトリ」とは、江戸時代末期に加賀国（現石川県）に現れたという白と黒の二つの頭を持つ鳥で、翌年のコレラを予言し「我らの姿を朝夕拝めば難を逃れることができる」と言ったとされています。このクッキーは、コロナ禍の大変な状況が早く終息してほしいとの思いから、作業所のメンバーが企画しました。売り上げの一部は、コロナ対策を支援するために赤い羽根共同募金などを通じて寄付されます。

正しい知識で安全に花火を楽しんで

■花火教室

牧之原保育園で6月16日、花火教室が行われました。この教室は、各家庭で安全に楽しく花火ができるようにと、消防署員や女性消防隊が講師となって行われたものです。園児は、女性消防隊が出題する花火に関する〇×クイズで安全な花火の遊び方などについて学んだ後、消防署員や女性消防隊らの指導のもと、実際に手持ち花火を1人1本体験。園児は少し緊張しながら、花火の正しい持ち方や終わった後の捨て方などを学びました。



消防署員や女性消防隊と一緒に手持ち花火を楽しむ園児



杉本市長に新茶を手渡す山本会長（中央）と石川部長（右）

おいしい一番茶で被災地支援

■福島県南相馬市へ新茶を寄贈

坂部茶業委員会（山本昌史会長）とJAハイナン女性部坂部支部（石川桂子部長）が6月4日、市役所棟原庁舎を訪れ、静岡牧之原茶の新茶を寄贈しました。これは、東日本大震災で被災した福島県南相馬市の皆さんに、本年生産された一番茶を飲んでいただくことで、被災地支援をしようとして行われていたもので、今回で9回目となります。今回寄贈された静岡牧之原茶は30グラム入り新茶100袋で、市から南相馬市に届けられます。



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎30040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp